

【基本方針1】

【小・中学校をめぐる現状と課題】

○ 学力実態

平成20年度に実施された「全国学力・学習状況調査」^{*7}では、平成19年度に続いて全国に比べて学力高位層の割合が低く、中・低位層の割合が高いこと、無解答率が高いことなどが明らかになりました。また、特に知識を活用する力において全国との差が大きく、学力実態は極めて深刻な状況にあります。

一方、児童生徒の授業態度等では「学習への熱意のなさ」や「授業中の私語の多さ」に課題が見られ、学校の取組みでは「活動を重視した授業の少なさ」や「授業研究のための研修の少なさ」といった課題が明らかになりました。

○ 生活実態

「全国学力・学習状況調査」においては、起床や就寝時刻の遅さ、朝食をとらない子どもの多さとともに、家庭で全く学習に取り組まない子どもや読書の習慣のない子どもの割合が高いという課題が明らかになりました。

子どもたちの健全な成長を考えた時、学校での取組みのみならず、学校と家庭・地域との役割分担とともに、より一層の連携・協働が求められます。

○ 学校規模の適正化

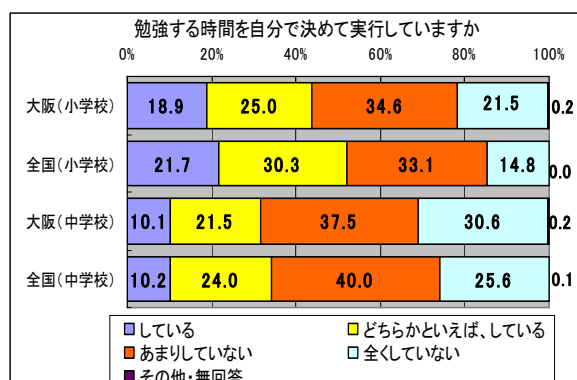
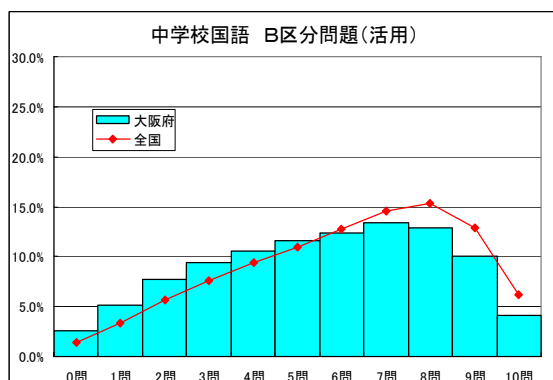
12学級未満の学校数は、平成20年度において、小学校204校(20.1%)、中学校162校(34.9%)となっています(政令市を含む)。将来、大阪府では、15歳未満人口の減少が予測されることから、さらに学校の小規模化が進むと見込まれます。

学校の小規模化は、互いに切磋琢磨する機会が少なくなり、子どもに社会性が育ちにくいなどの課題も指摘されており、学校教育活動の活性化や学習環境の整備等といった観点から、地域の実情に応じた学校統廃合の促進や小規模校の活性化など学校規模の適正化が求められます。

○ 校種間の一層の連携と就学前教育の充実

校種間においてはそれぞれ学習指導や生徒指導上の課題があり、これらの情報交換や交流連携が十分に取れていない現状にあります。今後、子どもの現状把握や課題の共有化を図るために、幼稚園や保育所における就学前教育の充実も含め、一層の校種間の交流や連携が求められます。

≪平成20年度「全国学力・学習状況調査」結果より≫



【基本方針1】

小・中学校で、子どもたちの学力を最大限に伸ばします

小・中学校での教育を通じ、子どもたち一人ひとりが自立しつつ多くの人々とともに社会で生きていく力の基礎、とりわけ学力をはぐくみます。そのため、子どもたちの「確かな学力」をはぐくむ学校づくりや学校・家庭・地域との連携などに取り組みます。あわせて、落ち着いた学習環境を醸成する生徒指導や読書活動の推進、生活習慣の確立等について総合的に取り組みます。

（重点項目1）学力向上方策の展開

- ◇ 学校生活の基礎を築く重要な時期である小学校1・2年生は、**35人を基準とした少人数学級編制**を実施するとともに、小学校3年生以上は、**少人数・習熟度別指導**^{*8}など個に応じた指導方法の工夫改善を図ります（政令市を含む）。また、**モデル授業の開発**や**授業評価**^{*9}の全小・中学校への導入により、学校全体で授業改善の取組みを進めます。
- ◇ **単元別テスト**^{*10}の実施を通じて学習の習得状況を把握し、つまづきの早期発見をするとともに、**児童生徒向けのワークブックを開発**し、自学自習力等の向上と家庭での学習習慣の定着を図ります。
- ◇ 基礎・基本の充実を図るために、**反復学習の取組みを推進**します。また、**PISA型学力**^{*11}の向上を図るため、各教科の学習や総合的な学習の時間等の充実に取り組みます。
- ◇ **大阪府学力テスト**^{*12}の実施により、**学力向上のためのPDCAサイクル**^{*13}を確立するとともに、**教育センターのカリキュラムセンター機能の活用**や**府内へのブランチ**^{*14}設置、**校内研修の活性化**、**学力担当教員の位置づけの明確化**等、学力向上に向けた教員の授業力の向上と学校の組織体制の充実に取り組みます。そして、子どもたちが興味と関心を持ち学習に取り組むよう授業・教材の工夫を行います。
- ◇ 言葉の力をはぐくみ、知的活動の土台を作るために、全小・中学校での**読書活動を積極的に推進**します。

（重点項目2）家庭、地域と連携した学習機会、教育内容の充実

- ◇ **全小・中学校で放課後等の学習指導を展開**し、教員と外部人材との連携のもと、子どもたちの学習習慣の定着と学習意欲の向上をめざすとともに、より学習したい子どもの期待に応えます。
- ◇ 子どもたちの豊かな人間性や社会性などをはぐくめるよう、保護者や学生、地域ボランティアなどを学校教育活動に積極的に活用して、社会体験や自然体験、ものづくりなど様々な**体験活動を充実**させます。
- ◇ 家庭との役割分担や地域との連携を通じて**子どもたちの学ぶ環境を整え、学習態度の基本の確立**を図ります。

（重点項目3）小・中学校の適正規模の確保支援

- ◇ 小規模の小・中学校については、統廃合も含め、地域の実情に応じた**学校の適正規模が確保できる**よう市町村を支援します。

（重点項目4）校種間の連携強化、就学前教育の充実

- ◇ 進学に際し、子どもたちが異なる校種間を円滑に移行できるよう、教育内容や生徒指導等、様々な観点から**保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・支援学校の交流や連携**を図ります。
- ◇ 幼稚園と保育所が、子どもの現状把握や課題を共有するなど、**就学前教育の充実**を図ります。